

資料提供			
月日（曜日）	担当課	電話番号	担当者
10月10日（火）	安全衛生課	088-621-2293	山根・矢野
	健康増進課 感染症・疾病対策室	088-621-2228	柴原・張

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）を発症した イヌからヒトへの感染事例について

国内で初めて、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）を発症したイヌからヒトに感染し、発症した事例が、県内において確認されました。

「重症熱性血小板減少症候群」は、SFTSウイルスを保有するマダニに刺咬されることで感染するとされております。今回、SFTSを発症したイヌからヒトに感染し、発症した事例が確認されましたので、県民に対して広く注意喚起をするものです。

※ これまでの状況（平成25年3月4日（四類感染症指定））

- （全国：303人の感染が確認（うち59人が死亡）（H29.9.27 現在）
（指定以前の8例を含む。））
- （本県：23人の感染が確認（うち7人が死亡）（H29.10.10 現在））

【今回のSFTS患者の発生状況】

- 1 患者：県内に住む、40歳代の男性
- 2 経過：
 - ・6月初旬、飼い犬が体調不良となり、動物病院を受診、SFTS疑いにより、関係機関で検査を実施。（6月下旬にSFTSと診断）
 - ・6月中旬、飼い主が、体調不良により、医療機関を受診。（当時は、飼い主のSFTSを疑っておらず、検査は未実施）
 - ・8月に関係機関と動物病院との話し合いの中で、飼い主も6月時点で体調不良だったことが分かり、9月初旬、検査が可能な国立感染症研究所が、飼い主の検体を採取、検査を実施。
 - ・9月下旬、イヌからヒトへの感染が確認された。
※現在は、飼い主、飼い犬とも回復している。

【国立感染症研究所において本患者がイヌからSFTSウイルスに感染したとする理由】

- ・イヌがSFTSを発症したのが6月初旬で、当該患者はそのイヌを直接触れながら介護をした後にSFTSを発症した。
- ・当該患者はマダニに咬まれた痕跡は確認されなかった。
- ・発症後約2ヶ月後に採取された血液において、数ヶ月以内にSFTSウイルスに感染したことを示す抗体が検出された。

【予防方法】

マダニに咬まれないことが重要です。

- 1 草むらや山など、マダニが生息する場所に入る際は、長袖・長ズボン、手袋、首にタオルを巻くなど肌の露出を避けましょう。
- 2 屋外活動後は入浴しマダニが付着していないか確認しましょう。
- 3 マダニに咬まれた場合は、無理に引き抜こうとせず、医療機関で処置してもらってください。
- 4 マダニに咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、直ちに医療機関を受診しましょう。その際、ペットの健康状態についても、主治医に伝えましょう。
- 5 ペットが体調不良の際は、直ちに動物病院を受診しましょう。
- 6 飼育犬、猫については、ノミ・ダニの駆虫薬を定期的に投与してください。
- 7 SFTSを含めた動物由来感染症の感染を防ぐために、ペットとの過剰なふれあいを控えてください。
- 8 野生動物は、どのような病原体を保有しているか分からないので、野生動物との接触は避けましょう。

※なお、マダニによる感染症は、日本紅斑熱などもあるので、マダニに咬まれないように注意してください。

※別紙、「マダニが媒介する新しい感染症 SFTS(重症熱性血小板減少症候群) 早期発見、早期治療が大切！！」を参考にしてください。

【当感染症発生時の発表取扱い】

SFTS は、四類感染症に分類されており、通常は県感染症情報センターで届出数等の公表を行うが、今回は、県民への注意喚起等の必要性から特に個別発表を行うものである。

※患者及び家族等の個人情報については、プライバシー保護の観点から、特定されることがないように、格段の御配慮をお願いします。

○報道各社の皆様へ

〔厚生労働省の説明〕

今回、県で資料提供しましたSFTSを発症したイヌからヒトへの感染につきまして、厚生労働省において、説明を行います。

日時：平成29年10月10日（火）午後5時から

場所：東京都千代田区霞が関 1-2-2 中央合同庁舎

厚生労働省 9階 第2会見室

マダニが媒介する新しい感染症 SFTS(重症熱性血小板減少症候群)



タカサゴキララマダニ

早期発見、早期治療が大切！！

問1:SFTSってどんな病気？

2011年に初めて特定されたSFTSウイルスに感染する事によって引き起こされる病気で、6日～2週間の潜伏期を経て、**発熱、消化器症状**(食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛)をひき起こします。重症化すれば、死亡することもあります。

問2:どのように感染するの？

SFTSウイルスを保有しているマダニに刺咬されることにより感染します。マダニの中でも、病原体を保有しているマダニは極めてまれですが、発症すると重症化するので十分気をつけましょう。この病気を媒介するマダニは、家ダニなどとは違う種類で、10mmほどの野山に生息しているマダニです。

問3:どのように予防すればいいの？

マダニに刺咬されないことが重要です。草むらや山など、ダニが生息する場所に行く場合には、**長袖・長ズボン・長靴、手袋、首にタオルを巻くなど、肌の露出をできるだけ少なくする**ことが大切です。虫除けスプレーも一定の忌避効果が得られます。ペットなどの身近な動物にも気をつけましょう。
屋外活動後は入浴し、マダニが付着していないか注意深く全身チェックしましょう。

問4:もしマダニに刺されたらどうしたらいいの？

マダニ類の多くは、皮膚にしっかりと口器を突き刺し、数日間吸血します。無理に引き抜こうとすると、口器の一部が皮内に残ってしまうことがあるので、**医療機関で処置**してもらってください。刺咬された後**1～2週間は、発熱、嘔気、下痢などに注意し、症状があれば直ちに医療機関を受診**してください。朝夕に体温を測り、裏面の体温表に記入し、熱が出たら直ぐに医療機関へ。

徳島県医学・感染症専門員 馬原 文彦先生監修

徳島県保健福祉部健康増進課感染症・疾病対策室

ダニに刺されたら1週間くらい朝夕に熱を測りましょう

ダニに刺された		姓名				体重				kg			
月	日	第 日		第 日		第 日		第 日		第 日		第 日	
		朝	夕	朝	夕	朝	夕	朝	夕	朝	夕	朝	夕
体温													
40													
39													
38													
37													
36													
35													

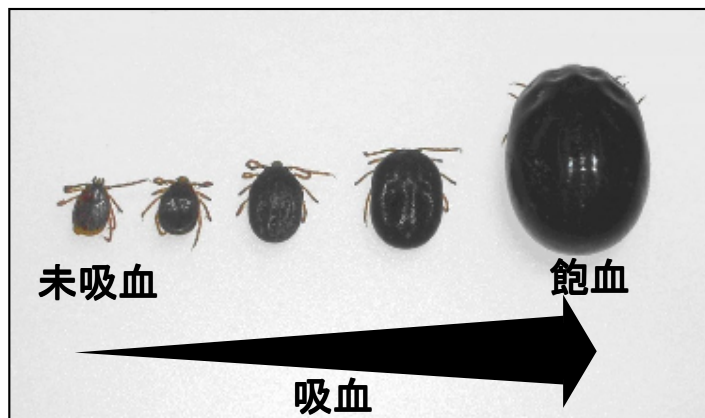
ヒトを刺咬しているマダニ



フタトゲチマダニ



タカサゴキラマダニ



吸血すると3~15ミリ位に膨れる

(写真提供:馬原アカリ医学研究所)